

サラウンド音楽 鑑賞授業マニュアル



♪ はじめに ♪

「サラウンド (Surround)」を直訳すると、「囲む、囲まれる」という意味になる通り、「サラウンド」は音に包まれるような演出をする音響技術です。・・・と言うような紹介をしますと、少し取っ付き難い印象をもたれる方も少なくないかも知れません。サラウンド自体まだあまり普及しておらず、実際にサラウンドを体験した方や、自宅

でもサラウンドを楽しめる環境のある方もなりまして、かなりの少数派になってしまうのではないのでしょうか。恐らくはまだ、一般的にはあまり馴染みのないサラウンドですが、「サラウンド」自体は決してどこか別の世界での話ではなく、私たちにとって、とても身近に存在するものなのです。

“私たちは、生まれたときからいつも「360°の音」の中にいるんです”

これは、シンセサイザーの第一人者としても世界的に知られ、サラウンド音楽の第一人者でもある、音楽家の福田勲先生の言葉です。私たちは無意識に前後左右、加えて上下の音を聞き分け、その全てを「響き」として捉え、聴覚によって空間を認識しています。一般的にステレオの音楽は2つのスピーカーしか使いませんが、私たちが過ごしている現実と同じ「立体的な空間」は、前後左右を取り囲むサラウンドでしか表現できない世界なのです。

音楽は、情景を表したり感情を表現するのに優れた手段の一つですが、そこにサラウンドの技術が加わることで、部屋全体を表現空間とする空間芸術作品になります。例えば、美しく花びらが咲き誇る様子をハーブのグリッサンドが表現していたとして、その音が立体空間を回

るように移動していったらどうでしょうか？それはまるで、花びらが一陣の風に乗ってひらひらと舞うような様子を連想させます。あるいは小鳥のさえずりを表現するフルートの演奏が四方八方から聴こえてきたら、清々しい朝の森を歩いている気分。もしもクラリネットがふくろうを演じたら、ちょっと怖くて寂しい夜の森の中に迷い込んだかのように感じさせてくれるでしょう。

サラウンドが描き出す立体空間は、音楽によって描いた舞台の中に、オーディエンスを客席から呼び込んでしまうような魅力があります。そしてその舞台の上では音楽が描き出す360°の情景が広がり、楽器が演じる登場人物たちが物語りを紡いでいきます。その感覚は「鑑賞」よりも「体感」と呼ぶ方が正しいかも知れません。

そんなサラウンドを音楽鑑賞教育に活用することを目的に、尚美学園大学尚美総合芸術センターでは、2009年度より「サラウンド音楽教育プロジェクト」がスタートしています。このプロジェクトでは、

- 1・音楽から情景を思い描く豊かな「想像力」を育む。
- 2・サラウンド空間での音の動きや楽器の音色を聴き分ける「集中力」を高める。
- 3・新しい鑑賞体験を通じて、子どもたちに、より音楽鑑賞に興味をもってもらう。

これらの思いを理念に据え、これまでにいくつもの小・中学校、保育園などにご協力をいただきながら、子どもたちに授業の中でサラウンド音楽を体験してもらえる機会を作ってまいりました。

本書では、サラウンドを授業に活用する方法のご提案とともに、「サラウンド音楽教育プロジェクト」として実施した鑑賞授業の中からいくつかの事例をご紹介させていた

だいております。まだまだ未開拓の部分が多い「サラウンド」の教材活用分野ですが、その分、大きな可能性も秘めております。本書が、皆様のご指導にとっての一助となり、少しでも音楽教育の発展にお役に立つことが出来ましたら幸いです。

尚美学園大学 尚美総合芸術センター
研究員 漢那 拓也

目次

- 1 **はじめに**
- 2 **目次**
- 3 **サラウンドとは？**
 - サラウンドならではの臨場感、空間表現力-
 - コンサートホールの残響を例にした解説-
- 4 **サラウンドの仕組み-**
 - サラウンドの種類と方式-
- 5 **体感型音楽鑑賞教育の提案**
 - サラウンドシステムを用いる意義-
 - 鑑賞を始めるまえに-
 - 子どもたちへの“サラウンド”紹介-
- 6 **授業への活用について**
 - サラウンドの教材活用にあたって-
 - 教材として活用した『交響詩ジャングル大帝
《2009年改訂版》』について-
- 7 **教材活用案のご提案**
 - サラウンド学習①～③-
- 8 **サラウンド鑑賞①～④-**
- 9 **鑑賞から表現へ①～④-**
- 10 **活用案の組み合わせで作る授業計画案-**
- 11 **活用例のご紹介**
 - 活用例①「サラウンド音楽鑑賞」編-
- 12 **高階西小学校の子どもたちによる感想文-**
- 13 **活用例②「絵画と音楽鑑賞のコラボ授業」編-**
- 14 **和田中学校生徒さんたちによる感想文-**
- 15 **活用例③「朗読とサラウンド音楽のコラボ」編-**
- 16 **鑑賞会後の園長先生との意見交換-**
- 17 **活用例④「サラウンド体験学習」編-**
- 18 **小谷場中学校の生徒さんたちの感想-**
- 19 **サラウンド機器の設置について**
 - 各スピーカーの基本的な役割について-
 - 各スピーカーケーブルの長さについて-
- 20 **設置のワンポイントアドバイス**
 - 設置の工夫点、諸注意事項など-
 - ・ケーブルの取り扱いについて
 - ・ケーブルとスピーカーの接続について
 - ・スピーカーの調整について
- 21 **執筆者プロフィール-**
 - クレジット-

♪ サラウンドとは？ ♪

-サラウンドならではの臨場感、空間再現力-

5.1chサラウンドとは、従来は前面のみに設置されるスピーカーを背面にも設置し、360°全方位から音に囲まれるような演出を可能とするリスニングシステムです。

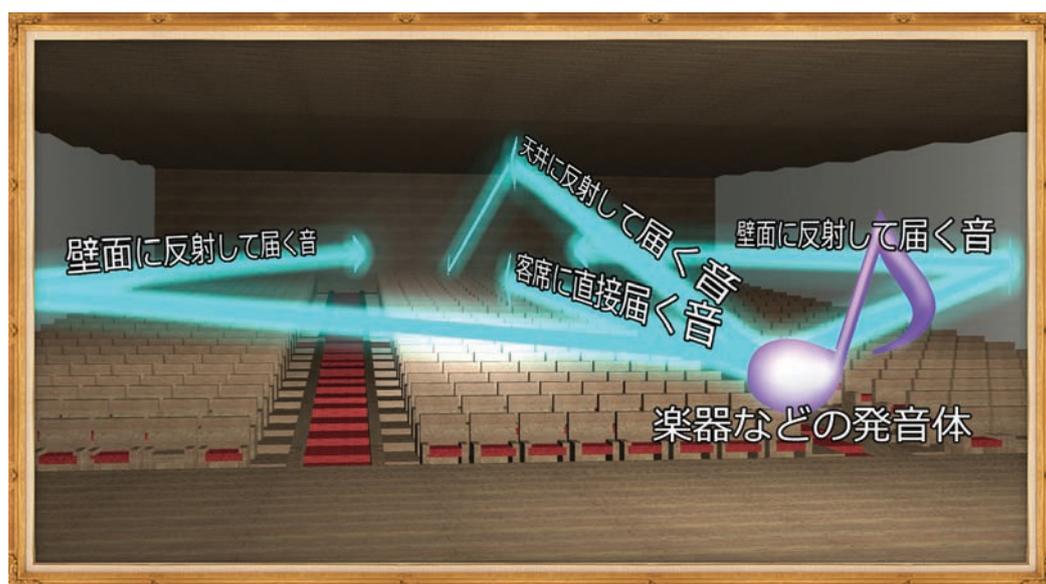
5.1chサラウンドシステムを用いることで、従来よりも臨場感（木々のざわめきにかこまれたり、コンサー

トホールの響きを再現したりなど）を向上させることができたり、演出の一つとして背面からの音を使ったり、（背面から肩越しにささやかれたり、音が部屋の中を縦横無尽に飛び交ったりなど）従来のステレオでは出来なかった表現が可能になります。

-コンサートホールの残響を例にした解説-

コンサートホールでオーケストラの演奏を聴くとき、私たちは客席から前方にあるステージを向いて鑑賞しています。オーケストラの音は、ステージ上から客席に届くわけですが、客席に向かう以外にも、音は

四方八方にステージから発されています。そして、ホールの壁や反響板などに反射した音が残響となり、ホールの豊かな響きとして私たちの耳に届いているのです。



左図の通り、発音体から発した音はホールの壁などに反射し、「残響」として客席の背面や側面から「空間全体の音」としてオーディエンスの耳に到達します。この「空間全体の響き」を再現しようとするのであれば、前面の左右にスピーカーを設置したステレオより、リスナーの背後や真横にもスピーカーを設置したサラウンドシステムの活用が効果的です。

サラウンドのシステムを導入することによって、自宅のリビングや学校の音楽室をはじめとした教室などで、まるでコンサートホールでオーケストラの演奏を鑑賞しているような「360°の立体空間」を体験をすることが可能になるのです。

もちろん、コンサートホールやスタジアムなどの実際の建築物の空間を再現する以外にも、空想上の空間も表現することができます。非現実的な空間を表現することが多いゲームや映画などにおいても、サラウンドによる

空間の演出はかなり昔から研究されており、サラウンド効果が実感しやすいものと、銃撃シーンやカーチェイスなど、アクション映画の醍醐味と呼べるようなシーンも音響面で臨場感溢れるような演出がされています。

そういった効果が体感できるよう、多くの映画館でもサラウンドシステムが実装されており、さらに近年では、映画館のみならず一般家庭でも、比較的安価に映画館のようなサラウンド効果を体感できる「ホームシアターセット」が登場し、家電量販店などで市販されています。

- サラウンドの仕組み -

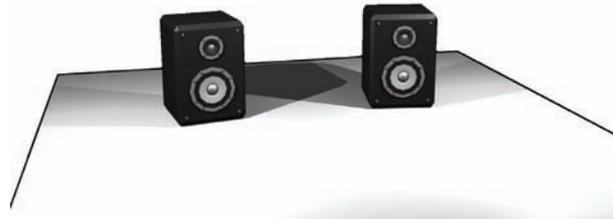
サラウンドとは、「モノラル・ステレオよりも多いスピーカーで音を出す」仕組みのことを指します。「モノラル」とは1つのスピーカーだけから音を出す仕組みで、「ステレオ」とは2つのスピーカーから音を出す仕組みです。

この「音が出る数」を「チャンネル数」と呼び、一般には、「1.0ch (モノラル)」や「2.0ch (ステレオ)」のように表記され、「2.1ch」以上のものをサラウンドと呼んでいます。

モノラル(Monaural)



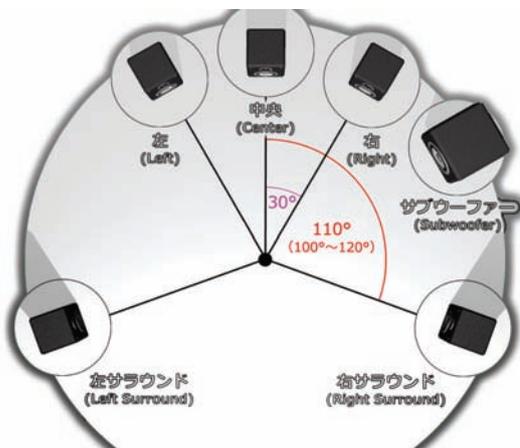
ステレオ(Stereo)



モノラルからステレオになると、左と右のスピーカーの間に空間が生まれます。空間を音が移動していくような表現(例えば左から右に車が通り過ぎるような表現など)は、モノラルでは表現することが出来ません。

- サラウンドの種類と方式 -

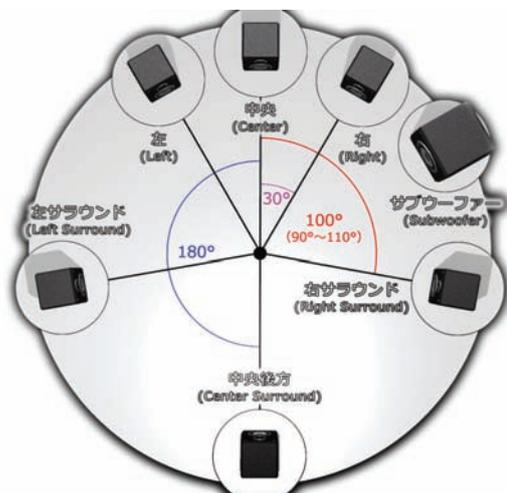
現在の一般的なサラウンドシステムは、主に「5.1ch」「6.1ch」「7.1ch」などがあります。ここでは、その中でも代表的な「5.1ch」を例にサラウンドシステムについて紹介します。



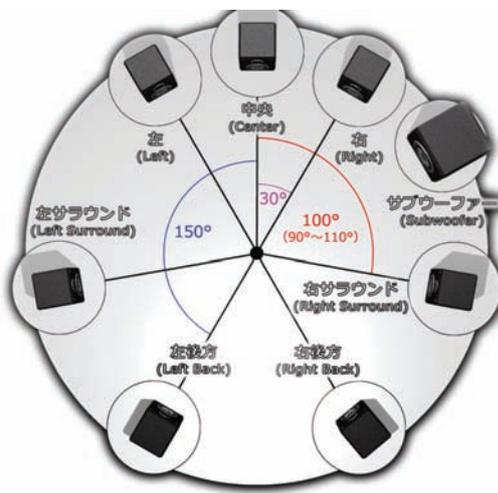
左図のように、「5.1ch」には「左 (Left)」、「右 (Right)」、「中央 (Center)」、「左サラウンド (Left Surround)」、「右サラウンド (Right Surround)」、「サブウーファー (Subwoofer)」の計6つのスピーカーがあります。

この中で、サブ・ウーファーは低音のみを再生するスピーカーのため、「0.1ch」として数えます。

サブ・ウーファーの「0.1ch」と「左、右、中央、左サラウンド、右サラウンド」の「5.0ch」とを合わせて、「5.1chサラウンド」と表記されています。



6.1chサラウンド



7.1chサラウンド

その他、「6.1ch」や「7.1ch」は、それぞれ左図のような配置になります。

ただし、ここで紹介している配置図や構成は、あくまでも一般的な代表例であり、中には音響的な試みや部屋の構造上の設置制限などにより、特殊な配置をする場合もあります。

体感型音楽鑑賞教育の提案

- サラウンドシステムを用いる意義 -

サラウンドシステムを用いることで、従来のステレオに比べ、聴覚情報の情報量を増やし、臨場感や表現力の向上をねらうことが出来ます。そういった音楽を教材として活用することで、質の高い学校用教材、および生涯学習用教材にすることが出来ます。

空間表現力の向上	聴覚の情報量を増やし、音楽が表現する「空間」を的確に子どもたちに伝えることによって、より深く「情景描写」を理解できるように促す。
背後からの音の活用	生理学的にも注意を引きやすい「背後の音」を使うことで、より鮮明に音を聴き分けられるようになり、子どもたちの「気づき」「発見」を促す。
立体的な音の動きの演出	教室全体を舞台とした「音楽が描くアクティブな動き」を体感することで、子どもたちの「積極的に聴く姿勢」を引き出す。

サラウンドを音楽教育に取り入れることによって、音楽をより理解しやすくするとともに、「今までとちょっと違う」「+α」の感動体験を通じて、音楽に親しむ環境を作ります。

- 鑑賞を始めるまえに -

鑑賞が始まる前に、サラウンドを体感したことのない子どもたちにはまず「今日はいつもとちょっと違って、皆さんの後ろからも音が出ます」というように、「いつもと違うこと」「後ろからも音が出る」を伝えてあげてください。サラウンド未体験の子どもたちには「後ろから音が出る」という発想がありませんので、「従来のステレオではなく、サラウンド」という認識を子どもたちに提示してあげたほうが効果が上がります。

たとえば、一つの曲をステレオとサラウンドでそれぞれ再生して違いを体感させたり、立体的な動きが分りやすい

曲をサラウンドで再生してあげると、サラウンドに対しての感覚的な理解が早まるのではないのでしょうか。

ただし、対象となる子どもたちの学年や鑑賞への集中力によっては、「いつもと違うこと」を自分たちで気付く力を十分に持っていると思います。ケースバイケースですが、小学校高学年以上が対象の場合は、前置きなくサラウンド鑑賞を始めることで、自発的な好奇心を育む一助となるかも知れません。

- 子どもたちへの“サラウンド”紹介 -

なお、サラウンドを分りやすく子どもたちに説明するためには、各スピーカーからそれぞれ単体に音を出し、子どもたちに「前後左右からの音」を体験してもらうことも、とても効果的です。

その方法としては、次項で紹介する「交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》」のDVDに収録されている「サラウンドチェック」が便利かと思います。是非、お試しください！そのほか、サラウンドの紹介として、映画を鑑賞してみることも効果的です。ハリウッド映画などは音響面で

も大変優れたサラウンド効果を演出していますので、サラウンドで聴いてみる価値は大いにあります。特に大作のアクション映画やファンタジー映画などは、サラウンドの演出効果が高いです。

普段とは違った視点で（“音”に注目して）映画を観ることで、「音」そのものに対する好奇心の芽生えや、「新発見」のきっかけとなるのではないのでしょうか。

♪ サラウンドの授業への活用について ♪

-サラウンドの教材活用にあたって-

次項より数ページにわたって、実際に「サラウンド」を教材として活用した実践レポートと、それを基にしたいくつかの活用案をご紹介します。なお、活用例のベースとなった鑑賞授業などにおいては、下記の教材ソフトを活用させていただきます。

-教材として活用した『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』について-

約半世紀を超えて甦った「交響詩ジャングル大帝」

この作品は2009年、手塚治虫先生・生誕80周年という記念すべき年に、学校法人 尚美学園が実践教育・研究の一環として取り組んだ「産学協同プロジェクト」として制作が始まりました。手塚先生の代表作の一つでもあるアニメ「ジャングル大帝」は、音楽（作曲：富田勲先生）も高い評価を得ており、1966年当時の日本コロムビアは、鑑賞教材にも使えるレコードという発想で『子どものための交響詩 ジャングル大帝』を制作し、第21回芸術祭奨励賞を受賞しています。

『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』は、1966年当時の『子どものための交響詩ジャングル大帝』が持つアルバムコンセプトを活かし、2009年版として新たな編曲を加え、新録音、教材としての充実も図り、5.1chサラウンドによる新しい表現を織り込んだ「新作」として生まれ変わっています。

作品の特徴について

交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》は、クラシック音楽やオーケストラの楽器を学習する一助として構成されていることにも大きな特徴があります。物語は壮大なジャングルを舞台に描かれる第1部と、レオの冒険を描いた第2部で大きく構成され、ブックレットに付属する音楽解説と共に35個の譜例と連動する音源が音楽の魅力に迫ります。

さらに手塚先生がこの作品の為に描かれた16枚の絵がジャングル大帝の世界に誘ってくれます。2009年版では5.1chサラウンドでの表現も加わり、子どもから大人まで楽しみながらオーケストラの楽器を身近に感じ、学べる作品となります。



(C)手塚プロ

交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》公式サイト

<http://www.shobi-u.ac.jp/sac/jel/index.html>

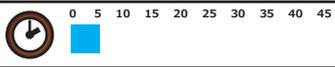
目的にあわせた、様々な鑑賞指導のかたち

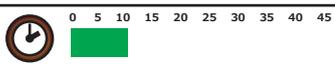
ここでは、これまでに実践してきた鑑賞授業および教材活用の経験から、鑑賞指導に効果的と思われる活用案をご提案させていただきます。サラウンド学習+鑑賞+表現を組み合わせながら、目的に合わせた授業案をご計画ください。

なお本書11ページからの「活用例のご紹介」の中で、当活用案の実践例を紹介させていただいております。併せてご参考にしていただけましたら幸いです。（活用例①…11ページ、活用例②…13ページ、活用例③…15ページ、活用例④…17ページ）

-サラウンド学習①～③-

サラウンド学習①～③案は、サラウンド体験を通して、サラウンドの仕組みや効果を知る学習プランです。サラウンドによって生まれる空間や音の響きを体感することで、「響きとは何か?」「音はどのようにして耳に聞こえてくるのか?」など、「音」そのものや空間と音の響きとの関連性について学習を深める良いきっかけとなります。

サラウンド学習①	サラウンドの音を体験してみよう!
所要時間：5分弱 	サラウンドの音を実際に体感することで、サラウンドの興味を高めるプランです。『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』では、「音声・字幕メニュー」→「サラウンドチェック」から、各スピーカーから順に出されるパーカッションの演奏を聴くことができます。その際に、テレビの映像には音が出ている方向に対応したスピーカーの絵が光る工夫がされていますので、「どの方向のスピーカーから音が出ているのか?」が分かりやすくなっています。 サラウンドの紹介とあわせて、授業のつかみにも向いたプラン です。
難易度：☆	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：① ② ④	

サラウンド学習②	ステレオとサラウンドの違いを聴き比べてみよう!
所要時間：10分 	DVDプレイヤーのリモコン（音声切替ボタン）や、DVDソフトのトップメニューからサラウンドとステレオとの音声を切り替え、感じられる響きや空間の違いを比べてみるプランです。また、『交響詩ジャングル大帝』の「アフリカが見えた!」などのように、サラウンドで収録されたコンサートホールでの演奏は、前面と背面とのスピーカーで「ステージの音」と「ホールの響きの音」に分かれていますので、前面と背面のスピーカーを聴き比べることによって、空間による音の変化を実感することも可能です。
難易度：☆☆☆	
小学校 中・高学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：① ④	

サラウンド学習③	サラウンドの仕組みについて知ろう!
所要時間：5～10分 	本書3、4ページの「サラウンドとは?」「-サラウンドの仕組み-」を教材資料としてご活用いただき、「残響」や「サラウンドの仕組み」について学習するプランです。小学校低・中学年には難しい内容かとは思いますが、中学校で音についての物理現象を学習した後であれば、響きに関する深い理解を子どもたちに期待することが出来るでしょう。また、「サラウンド学習①」や「サラウンド学習②」と組み合わせることで、 座学と体験の両方から学習することも可能です。
難易度：☆☆☆☆☆	
小学校 高学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：④	

- サラウンド鑑賞①～④ -

サラウンド鑑賞①～④案は、サラウンド音楽を聴いて音楽が描く情景を想像する、音楽鑑賞プランです。鑑賞に至るまでの準備や、鑑賞中のスタイルによって、難易度や想像の自由度に違いが生じます。対象となる学年やクラスの習熟度に合わせてプランをご選択いただければと思います。

サラウンド鑑賞①	立体的に音が動く音楽を体感しよう！
所要時間：5分 	本格的な鑑賞を始める前に、まずサラウンド上で音が動く音楽を実際に体感し、今までにない新しい音楽のかたちを子どもたちに体験してもらうプランです。『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』の中では「ハンターたちがきた!」「パンジャのかつやく」「レオのたんじょう」「あらしの海」「ゆかいな魚たち」「ノコギリザメ」が、音の動きが分かりやすい楽曲です。どの学年の子どもたちもサラウンドで音が動き回ると盛り上がりますので、 授業のつかみやウォーミングアップなどに最適 です。
難易度：★	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：①	

サラウンド鑑賞②	ストーリーとサラウンド音楽から情景を思い浮かべよう！
所要時間：5～10分 	ジャングル大帝のストーリーや舞台設定を簡単に紹介した後、手塚治虫先生のイラストを見ながらサラウンドの音楽を鑑賞するプランです。ご参考までに、『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』の中でもとりわけ「ハンターたちがきた!」「つかまったエライザ」「パンジャの死」「ゆかいな魚たち」「ノコギリザメ」はストーリーに沿った 具体的な情景を想像 するのに適し、「動物たちのつどい」「帰り道」「動物たちの喜び」「あらしの海」「星になったママ」などは、 自由に想像を膨らませられる余地のある楽曲 です。
難易度：★★	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：① ② ③ ④	

サラウンド鑑賞③	イラストを見ずに情景を思い浮かべよう！
所要時間：5～10分 	DVDの映像を繋いでいるテレビの電源を消すなどしてイラストを隠し、舞台設定などの紹介と、実際に鑑賞する音楽のみから情景を思い浮かべる鑑賞プランです。このプランの場合、楽曲から具体的な情景を想像することは、かなり難易度が上がってきます。一方、「自由な想像」に関しては、舞台設定をどこまで紹介するかによって変わりますが、紹介ばかりになってしまっても子どもたちの集中力が続かきませんので、紹介と鑑賞半々が程良いバランスでしょう。
難易度：★★★★	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：②	

サラウンド鑑賞④	音楽のみから、情景を思い浮かべよう！
所要時間：5分 	事前の説明も、イラストも、ストーリーやナレーションも一切なく、曲名も伏せたまま、音楽のみから情景を思い浮かべる鑑賞プランです。①～④の鑑賞プラン中、このプランが最も難易度が上がりますが、鑑賞前に何の情報もない分、最も自由に情景を想像することが出来ます。なお、DVDの操作はテレビ画面などを見る必要がありますが、子どもたちが画面を見ることが出来る状況で操作してしまいますと曲名が分かってしまうので、テレビの向きを変えるなど上手く隠しながら操作する必要があります。
難易度：★★★★★	
小学校 中・高学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：①	

-鑑賞から表現へ①～④-

鑑賞から想像したことを言葉や絵、音楽などで表現することは、鑑賞で得たものを確認するためにも是非取り組みたいプロセスです。また、子どもたちの中に「鑑賞したことを表現する」という認識が予めあることで、子どもたちの鑑賞に取り組む姿勢も変わってきます。ここでは、「鑑賞」から「表現」へ推移するためのご提案をさせていただきます。

鑑賞から表現へ①	感想文を書こう！
所要時間：5～10分 	サラウンドならではの情景描写の表現力を活かし、感じたことをそのまま感想文に書き記すプランです。「感想文を書く」という「イメージのアウトプット先」を作ることで、鑑賞に集中させ、子どもたちの「気づき」を促します。『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』の中では「帰り道」、「ハンターたちが来た!」、「あらしの海」が音楽の雰囲気の特徴があるため、感想を書きやすいでしょう。
難易度：☆☆☆	
小学校 中・高学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：① ④	

鑑賞から表現へ②	イラストに描いてみよう！
所要時間：15～20分 	鑑賞から感じたイメージをイラストに描くプランです。選曲によって難易度が変わりますが、「鑑賞から表現へ①」で挙げた曲などはやはり、同上の理由でイラストも描きやすいと思われます。一方、細かいストーリーの描写をしている曲は場面の転換が多く、イラストにするのは難しいかも知れません。多くの語彙をもたない小学校低学年や未就学児は、感想文よりイラストの方が表現しやすいでしょう。イラストを描いている間にも、BGMとして鑑賞した曲を繰り返し再生してあげますと、より描きやすくなります。
難易度：☆☆☆☆	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：②	

鑑賞から表現へ③	ストーリーを書いてみよう！
所要時間：15～30分 	音楽から情景を想像するだけでなく、その先にストーリーまで思い浮かべるのは、少しハードルが高いかも知れません。おおまかなストーリー程度であれば、小学校中学年くらいであれば書けますが、場面展開の細かい曲などでは相応に難易度も上がります。さらなる発展として、「鑑賞から表現へ②」と組み合わせて自分たちで紙芝居を作るプランも考えられます。やはり難易度が高いですが、取り組み甲斐のある試みではないでしょうか。
難易度：☆☆☆☆☆	
小学校 中・高学年 中学校 全学年 向け	
活用例②の発展形として	

鑑賞から表現へ④	表現したことを発表してみよう
所要時間：10～15分 	それぞれが表現したことを互いに発表し合い、（同じ音楽を鑑賞していても）人によって感じ方や、その表現の仕方が違うことを認識するためのプランです。鑑賞によって音楽を味わい、そこから一人一人が何かを感じ、それぞれ独自の感受性があること、違いを認めることの重要性を子どもたちに伝えることが出来ます。そしてそれとは逆に、同じ曲を聴いて同じことを感じる「共感」を実感するきっかけとしても、このプランをご活用いただく価値はあるのではないのでしょうか。
難易度：☆☆☆	
小学校 全学年 中学校 全学年 向け	
実施した活用例：①、②	

- 活用案の組み合わせで作る授業計画案 -

各活用案を組み合わせで作る、授業計画案の一例をご紹介します。以下の例をご参考に、対象学年や学級に合わせて自由に構成していただければ幸いです。なおここでは1コマあたりの授業時間を45分として定義しております。

サウンド音楽を知ろう！楽しもう！		
5分	サウンド学習① 難易度：☆	サウンドを知ること、楽しむことを目的として、体験を通してサウンドを学習する授業プランです。 授業の締めとして取り入れた、最後の15分間のサウンド鑑賞～感想文からは、楽曲に対する感想だけでなく、サウンドに対しての子どもたちの「気付き」や「発見」が見て取れるという期待がもてます。
10	サウンド学習② 難易度：☆☆☆	
15	サウンド鑑賞① 難易度：☆	
20	サウンド学習③ 難易度：☆☆☆☆☆	
30	サウンド鑑賞② 難易度：☆☆	
40	鑑賞から表現へ① 難易度：☆☆☆	
45		

鑑賞力をアップしよう！		
5分	サウンド学習① 難易度：☆	サウンド音楽に親しみ、鑑賞から想像を膨らませる力を育むための授業プランです。 構成は授業を15分×3に分けた3部構成。 序盤のウォーミングアップでは、サウンドの簡単な紹介とサウンド体験（2曲）で鑑賞への準備を整え、中盤→終盤へと2段階で鑑賞をステップアップさせています。
10	サウンド鑑賞① 難易度：☆	
15	サウンド鑑賞① 難易度：☆	
20	サウンド鑑賞② 難易度：☆☆	
25	鑑賞から表現へ① 難易度：☆☆☆	
30	サウンド鑑賞③ 難易度：☆☆☆☆	
35	サウンド鑑賞③ 難易度：☆☆☆☆	
40	鑑賞から表現へ① 難易度：☆☆☆	
45		

感じたことをみんなで話し合おう！		
5分	サウンド学習① 難易度：☆	鑑賞で感じたことを感想文に書き、学級で発表しあうことで「共感すること」や、「感受性の違いを認識すること」を体感・学習する授業プランです。 冒頭の10分はウォーミングアップ。実際に感想文を書く曲の鑑賞プランはいくつか選択肢がありますが、より自由な感想が出るよう、「鑑賞③」をここでは採用しています。
10	サウンド鑑賞① 難易度：☆	
15	サウンド鑑賞③ 難易度：☆☆☆☆	
20	鑑賞から表現へ① 難易度：☆☆☆	
25	鑑賞から表現へ① 難易度：☆☆☆	
30	鑑賞から表現へ④ 難易度：☆☆☆	
35	鑑賞から表現へ④ 難易度：☆☆☆	
40		
45		

紙芝居を作ってみよう！		
5分	サウンド学習① 難易度：☆	音楽から情景を思い描き、イラストとストーリーを考える、「鑑賞から表現へ」の「表現」に重きを置いた授業プランです。 冒頭の10分はウォーミングアップとして取り入れていますが、必要に応じて、この枠を授業の趣旨の説明やグループ分けの時間として使っていただければと思います。
10	サウンド鑑賞① 難易度：☆	
15	サウンド鑑賞④ 難易度：☆☆☆☆☆	
20	鑑賞から表現へ② 難易度：☆☆☆☆	
25	鑑賞から表現へ② 難易度：☆☆☆☆	
30	鑑賞から表現へ④ 難易度：☆☆☆☆☆	
35	鑑賞から表現へ④ 難易度：☆☆☆☆☆	
40		
45		

活用例のご紹介

-実践レポートその1「サラウンド音楽鑑賞」編-

サラウンド音楽から、情景やストーリーを想像する。

実施日時：2009年 7月9日 場所：川越市立高階西小学校 音楽室

教材：交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》 対象：3年生～6年生 1クラス約30名

[授業プラン]

(分)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
学 習 ①	学 習 ②	鑑 賞 ①	鑑 賞 ③	鑑 賞 ③		鑑 賞 ②			表 現 ①
ウォーミングアップ			場面当てクイズ		サラウンド紙芝居朗読			感想文	

[授業詳細]

「ウォーミングアップ」では、楽器が演じるライオンの雄叫び（ホルンの演奏）やネズミの鳴き声（エレキギターのリフ演奏）が、サラウンド上で動き回る演奏を聴いてもらいました。同時に、ステレオとサラウンドとを途中で切り替え、ステレオとサラウンドの違いを実際の耳で体感してもらいました。

続いて「場面当てクイズ」では、まずサラウンドで『交響詩ジャングル大帝』の「あらしの海」を聴かせ、（もちろん、曲名やイラストなどは伏せておきます）その後2枚の絵の中から、どちらがこの曲の場面を描いた絵なのかを回答してもらいました。

Aの絵：海の上で嵐が巻き起こっている絵

Bの絵：港から船が出発する絵。

結果、9割以上の子どもたちが、Aの絵を表現した楽曲であると解答しました。選択理由の解答例としては、解答A…かみなりのなっている音がしたから、海に飛び込む音がしたから など。解答B…大きなもの（船）が動いている感じがしたから

続いて『交響詩ジャングル大帝』の「帰り道」を聴いてもらい、今度は鑑賞後にも絵を見せずに、音楽からどんなイメージが浮かんだかを回答してもらいました。

その結果、様々な回答が得られましたが、どの回答も概ね楽曲が表現しているイメージに合致したものでした。

「帰り道」の感想例…森で動物たちが歩いている感じ、スキップしている感じ、楽しい感じ、平和な感じ、草原を駆け回っている感じ、じゃれあっている感じ など。

「サラウンド紙芝居朗読」では、A2サイズに印刷したイラストを見せながらストーリーを朗読し、その背景でサラウンド音楽を再生しました。

「サラウンドで紙芝居」という新鮮な体験が印象に残ったようで、授業ラストの「感想文」

には、多くの子どもたちが紙芝居に関する感想を書いていました。また、中には音楽表現と情景、感情の描写について言及する子もいました。（実際の感想文は次項をご参照ください）



[総括]

子どもたちにとって、サラウンドで音が動き回る体験は真新しく、“音”に対して集中出来ていました。その影響もあってか、音楽から情景を予想以上に高い精度で読み取っており、子どもたちの感受性の豊かさに驚かされました。

今回使用したサラウンドスピーカーは10年近く昔のモデルで、今では売値がつかないような安物の小型簡易ホームシアターセットでした。低音を担当するサブウーファー

も使いませんでしたので、正直、音質はかなり悪い状況でしたが、サラウンドの魅力は子どもたちに十分に伝わったようです。

今（2012年現在）は3万円程度のホームシアターセットでも非常に高音質になってきています。技術の進化とともに、芸術鑑賞の楽しみ方も進化しているように感じました。

-高階西小学校の子どもたちによる感想文-

◆私が一番びっくりしたのは、スピーカーが4つぐらいありいろいろなところから音が聞こえる走り回っているように聞こえることです。私はアニメなどの音の表現には楽器ではなくコンピューターで表現していると思っていました。

でも、今日の授業でオーケストラがぞうのなき声を表現できることを初めて知りました。ねずみや鳥、オルゴールなど音で、そのお話しを表現できることも知り、すごく勉強になりました。楽しかったです。（6年生）

◆動物たちがハンターからにげている時の音がすごく上手でした。パンジャは動物たちを守ったりして、すごいなあと思った。動物たちがハンターからにげている時、音が動いているように聞こえました。ねずみが動き回る音は、本当に動いているみたいでした。動物たちやオルゴールの音がうまく表現されていて良かった。言われてみたら動物の鳴き声がすごい上手でした。エライザを助けるシーンがよかったです。（5年生）

◆この授業で一番心に残ったのは、「サラウンド」という技術です。5つのスピーカーをぐるぐるとまわっているのがとてもすごいなあと思いました。他にもジャングル大帝を音楽で表現できるなんてかっこいいなあと思いました。ジャングル大帝のCDが発売されるのがとても楽しみです！（6年生）

◆音で物語をあらわせるのにびっくりした。ねずみとかも本当に走っているようだった。あの音を作った人はすごいなあと思った。なんで、あんなふうに遠くに行っているように聞こえたり近くにきているように聞こえるのかな、と思った。紙しばいが面白かった。（4年生）

◆スピーカーがまわりにあったのでほんとうにそこにいたようにおもいました。おとうさんとお母さんとはなればなれになったレオは、とてもかわいそうでした。まもったり、すくったりするところが、とてもいいおはなしでした。（3年生）

◆この曲を聞いて何回か同じ曲を使っているのに気づいた。音楽を聞いているとき、私もその場所にいるような気がした。5つのスピーカーで聞いている音はいつもの音とはちがうような気がした。5つのスピーカーでながす音はすごくはくりよくがあった。（5年生）

◆ジャングル大帝は見たことなかったので、曲で聞けるなんて、うれしかったです。かみしばいつきで、わかりやすかったです。動物と人げんの、おいかけっこがふしぎな音できにいました。このジャングル大帝は感動して泣きそうになりました。（5年生）

◆わたしは、はじめて、ジャングル大帝を聞いて、とてもいい話だと思いました。ねずみが走りまわるところや、ぞうの鳴き声が楽器でやったとは思えませんでした。人間が動物をじゅうでころすなんてひどいと思いました。わたしは、この話が、本であるなら読みたいと思いました。（5年生）

◆初めてのクイズ（ジャングル大帝の）も楽しかったし、パンジャはライオンなのに森のみんなと仲良くして、みんながピンチになった時はかけつけてハンターたちをやっつけてくれて、やさしくてゆうかなライオンだった。それをひきつごうとしたレオもえらかった。その場面ごとに合った音楽がながれてきて、かみしばいだけでなく、本当にその場所にいるみたいで不思議だった。私はピアノをやっているんで、そういう想像のできるような演奏をしたいと思いました。（6年生）

◆絵と音が、ぴったり合わさっていました。音だけでも、場面が想像できました。何ヶ所かに、スピーカーを置くと、本当に動いているように感じました。

話の内容は、レオのお父さんが動物の仲間を助ける場面が、とてもすごいと思いました。また、最後にレオのお父さんが鉄砲でうたれてしまっかわいそうだと思いました。でも、レオという子どもが生まれて、お父さんと同じように動物たちを守ってあげたいと思いました。（5年生）

◆ねずみがにげるやつでスピーカーをつかってほんとうににげてるみたいですごかったし、ぞうのパオーンという音を出すのにトロンボーンというがっきをつかっていたなんておどろいた。紙しばいのジャングル大帝もおもしろかったです。（3年生）

◆私は、この曲を聞いてすごくその場面の表現が上手だった。悲しい所は悲しく表現していて、こっちまで悲しくなってきた。先生は、とても分かりやすくせつめいしてくれて、とても授業が頭に入った。そして音を出すときとても大きな音で聞きやすかった。クイズを出すことで、授業が楽しくなったと思う。今日この授業で、いろいろなことを学んだ。（6年生）

「サウンド音楽鑑賞」と「絵画表現」とのコラボレーション授業

実施日時： 2009年 10月13日

場所：杉並区立和田中学校 視聴覚室

鑑賞用教材：交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》（対象：中学1年生～3年生 2クラス合同70名）

この授業では2コマ分の時間（90分）を使って「音楽を鑑賞して思い浮かべたイメージを絵に描くこと」をテーマに、音楽鑑賞と絵画とのコラボレーション授業を実施しました。

(分)	10	20	30	40	45	50	60	70	80	90	
授業紹介	学 習 ①	鑑 賞 ①	鑑 賞 ③	鑑 賞 ②	表 現 賞 へ か ら ② ら		授 業 紹 介	講 義 の 義	レ イ ラ ス ト の 表 現	鑑 賞 ③	表 現 賞 へ か ら ④ ら
	サウンド紹介		サウンド鑑賞から絵画表現へ				絵画表現の講義&イラストの仕上げ			感想文	

[授業レポート]



前半は、サウンドの紹介に始まり、『交響詩ジャングル大帝』の鑑賞会になりました。「ジャングルの朝」の絵は隠したまま再生です。



鑑賞会のラストには、シロフォンやチェレスタ、トランペットが扮するネズミ達がサウンドで駆け巡る、「レオの誕生」を視聴。



教室をダイナミックにクルクルと回りだす演奏に、生徒の皆さんも盛り上がってくれたみたいです。



それぞれ6～7人のグループに分かれ、先ほど絵を見ずに聴いた「ジャングルの朝」を再度聴きながら、一斉に絵を描き始めます。



ところどころにディスカッションを挟みながらイメージを共有していているようです。



どの絵も個性豊かで、生き生きと描かれていますね。楽曲と同じく、壮大さや力強さも感じます。

[総括]

『交響詩ジャングル大帝』では、手塚治虫先生原作のストーリーと、それをオーケストラを駆使して余すところなく表現した富田勲先生の音楽性の両方が軸となっています。手塚治虫先生がジャングル大帝のストーリーを通して伝えたかった「メッセージ」を、手塚先生と同じように「音楽から情景を思い浮かべてイラストを描く」というプロセスを通じて感じ取れるかというのが、今回の授業の大きなテーマでした。

生徒さんたちの力作を見てみますと、どのイラストにも共通して描かれているのは「太陽」。大きさは様々ですが、どれもみな存在感ある太陽が描かれています。生徒さんたちのイラストを見た富田先生は、「“ジャングルの朝”

は、まさしく太陽のイメージそのもの。お日様がにこにこ動物たちを見守っている感じ。」とコメント。作曲家が音楽に込めたイメージを、和田中学校の生徒さんたちもしっかりと聴きとっていたようでした。

「太陽」という共通点はありましたが、全員が同じイメージのみを思い浮かべたわけではなく、生徒さんたち一人ひとりが自分自身のイメージを感じ取っており、イラストを描く際にグループ内でディスカッションをしている様子が印象的でした。最後に各グループが描いたイラストを発表し合うことで、「同じ曲を聴いても、人によって様々なイメージを持つ」ということを実感していたようでした。



- 和田中学校生徒さんたちによる感想文 -

みんな音楽から想像するのは全然違うということがすごくよく分かりました。曲を聴いている時はずっとすごい一言で、スピーカーも今の音楽の技術はすごいなと思いました。自分も音楽をするときは人に感動を与えられることができると思いました。

立体音響を聴いてみると、自分が実際にストーリーに入っているような感じになる。ストーリーが、その場面ごとの音楽に合わせて頭に浮かぶ。5.1chサウンドすごい。音が教室全体に響いていて、自分たちがストーリーの中心にいる気分。

音楽が場面に合わせて変化していく様子が分かりました。絵を見ながら音楽を聞いていると、より迫力がわいてきて、すごいなと思いました。絵を見てるだけでその場のストーリーが伝わってきました。

歌詞も声もないのに、その場の光景が見えてくるなんて楽器はすごいと思った。ただ音楽を流しているだけでなくスピーカーの位置が工夫されている。

5.1chサウンドすごい!!!音が立体的に聞こえてきた。サウンドなのに、本当に今、実際に聞いているような感じになった。絵で表現するのが楽しかった。でも絵で表現するのはやっぱりムズかしいなあ・・・と思った。同じ音楽を聞いても、表現すると人それぞれちがうんだなと思った。

「交響詩ジャングル大帝」は光がさしこんでいるイメージなど、聞いていていろいろなことが想像できて、またそれは人によって違うということが絵をかいたことによって改めて分かりました。

サラウンドによる「紙芝居」の新しい可能性

朗読とサラウンド音楽をコラボレーションさせた「サラウンド紙芝居」は、実は『交響詩ジャングル大帝』の教材活用活動の中では、一番多く実践してきている取り組みです。

本レポートでは、その中から保育園で実施した内容を紹介します。

「サラウンド紙芝居」自体、これまでに下は3歳、上は小学校6年生と、比較的幅広い年代を対象に実施しています。

どの年代からも評判がよく、鑑賞中はみんな目を輝かせて音楽とお話に集中している様子が伺えます。



[鑑賞の内容]

今回のプログラムでは、3歳～6歳が対象となったため、集中力の継続の問題が懸念されました。そのため、鑑賞の時間をトータル15分をベースに考え、子どもたちの反応や集中の具合を見ながら調節をしました。

1回目： 対象／3、4歳児童 7、8名程度 鑑賞時間／約15分

サラウンド紙芝居を、綾戸智恵さんのナレーション（交響詩ジャングル大帝のDVDに収録されているもの）も交えて実演。

結果：

3歳児でも、多くの子どもたちは紙芝居を15分間集中して鑑賞していた。

園長先生からのアドバイス：

子どもたちが想像以上に集中できていた。8割方の子どもが大人しく聞いていたことに驚いた。

綾戸智恵さんのナレーションには反応を示していないように見えたが、恐らく関西弁のナレーションは、3～5歳の子どもには分からないのではないかと。

2回目： 対象／4、5歳児童 10名 鑑賞時間／約20分

2回目は、綾戸さんのナレーションをOFFにし、その分紙芝居の読み手が語る部分を増やして実施。

なお、1回目で予想以上に子どもたちが集中できる様子が伺えたのと、2回目は1回目よりも対象の年齢が上なのもあり、鑑賞時間を15分から20分に増やした。

結果：

子どもたちの顔色を見ながら話し方の工夫が出来るためか、子どもたちの集中の度合いは1回目よりも高かった。

「レオのたんじょう」の曲中、子どもが絵を見て「あの箱から音が出るの？」と質問があったことなどから、チェレスタの演奏とオルゴールの音を関連させて感じ取っていた様子が伺えた。

園長先生からのアドバイス：

かなり集中していた様子。オルゴールの音（チェレスタ）をしっかりと感じていた子がいたことにも驚いた。**音楽から場面を想像するようなアプローチも面白いかもしれない。**

3回目： 対象／4、5歳児 7、8名 鑑賞時間／約25分

2回目の20分の鑑賞時間も問題なくクリアできたため、3回目は25分に挑戦。2回目終了時の園長先生からのアドバイスに「**音楽から場面を想像するアプローチ**」を取り入れる提案をいただいたので、随所に「音楽を聴いて、場面を想像してみよう！」というコーナーを追加した。

結果：

「レオの誕生」「ハンターたちが来た！」の曲中に、場面を想像してみる試みを取り入れたものの、サラウンドの音楽を楽しむ様子はあったが、「どんな想像が浮かんだかな？」という声掛けには反応が薄かった。

園長先生からのアドバイス：

場面を想像する声掛けに対して反応が薄かった理由は、子どもたちは『交響詩ジャングル大帝』の音楽から「想像が出来ない」のではなく、浮かんだ想像を言葉で表現するだけの「語彙」を持っていないからではないか？

- 鑑賞会後の園長先生との意見交換 -

◆3～6歳を対象とした鑑賞の場合、語彙の少ない子どもたちでも“浮かんだ想像”を表現できるよう、音楽を聴いて感じた情景を「絵に描いて表現」させるようなアプローチをしてみてもどうだろうか？

◆絵が動く「アニメーション」ではなく、静止画である「紙芝居」で15分以上子どもたちが興味を失わなかったのは指導者側として「発見」だった。「語り」に関しては、あらかじめ用意されたナレーションを流すだけよりも、目の前で「実演」する方が子どもたちの集中度も高いように感じる。

◆最終的に紙芝居の鑑賞時間が25～30分に膨らんだが、それでも子どもたちが「飽きた」という印象はなく、中にはまだ聴いていたいようにしている子どもも数名いた。朗読者は紙芝居の専門家でもなければ特に朗読が得意というわけでもないが、（むしろ不慣れで、いかにも素人というようなレベル）それでも子どもたちに受け入れられたのは、音楽の力や、ジャングル大帝自体のストーリーの面白さによるところかも知れない。

◆サラウンドで音が動き回るような場面では、純粋に子どもたちも楽しんでいただけだった。

[総括]

「サラウンド紙芝居」には、未就学児が対象でも受け入れられる取っ付き易さがあり、サラウンド鑑賞入門や、オーケストラ鑑賞入門として有用性が高いと思われます。

一方で、鑑賞する側とは逆に、紙芝居を実演した側での意見になりますが、「**音楽の展開に合わせて台本を作る**」という体験も、鑑賞指導を進めていく上で非常に興味深いものと感じました。「音楽から想像してイラストを描く」

アプローチとも通じるところがありますが、「**音楽を感じ取る力**」と、「**自分が感じたものを第三者に伝える力**」の両方を育むことができる題材ではないでしょうか。

音楽から感じ取ったことを「イラスト」で表現するのか、「言葉」で表現するのか、方法は様々ですが、子どもたちの表現力や何を育むのか？といった授業でのねらいに合わせられるような選択肢になればと思います。

サラウンド体験を通じて、「空間」を感じる

実施日時： 2010年 1月7日 場所：川口市小谷場中学校

鑑賞用教材：交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》 対象：中学1年生～3年生 1クラス30名前後

[授業プラン]

川口市小谷場中学校の鑑賞授業では、授業化に向けて小谷場中学校音楽科の佐藤先生と共同で授業計画を立て、これまでの鑑賞授業研究で実施したものを土台にしながら、『交響詩ジャングル大帝』の大きな魅力の一つでもある、「サラウンド体験」と、作曲手法の「ライトモチーフ」が軸となる授業プランに致しました。

(分)	5	10	15	20	25	30	35	40	45
学 習 ②	学 習 ③	学 習 ①	ジ ヤ ン グ ル 大 帝 の 紹 介	サラウンド鑑賞②		ラ イ ト モ チ ー フ の 解 説	鑑 賞 ③		
				鑑賞から表現へ①					
サラウンドの知識について			サラウンド紙芝居朗読				場面当て		

[授業内容]

1、サラウンドの知識について

「ステレオとサラウンドとの比較」

最初にステレオでの音の移動を聞いてもらい、その後にサラウンドの音の移動を聞いてもらいます。使用した音源ですが、ステレオはF1のレーシングカーが左から右に走り抜ける様子を録音したものです。サラウンドの方は、『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』の「サラウンドチェック」を活用しました。

「サラウンドシステムの紹介」

サラウンドシステムを紹介し、基礎的な知識を身につけてもらいます。紹介がてら、各スピーカーからそれぞれ音を出すのですが、いきなり後ろから聞こえてくる音には生徒さんたちもビックリしたようで、思いのほか盛り上がりました。意外と、こういったシステム的な紹介でも、授業のツカミとして使えるようです。音が動いている時とはまた違い、背後のスピーカーから突然音が聞こえてくると、より印象的にサラウンド効果を感じるのかも知れません。

2、「交響詩ジャングル大帝」を物語の情景を想像しながら、サラウンドで聴く

「ジャングル大帝の紹介」

授業では、原作の漫画のラストシーンや『交響詩ジャングル大帝』のイラストなどを見せながら、作品のテーマやストーリーを解説。生徒さん達には音楽とストーリーとを両方理解した上で、関連させて情景をイメージしながら鑑賞してもらいたい…という思いもあり、ストーリー面の紹介も授業の中に取り入れていただきました。

「交響詩ジャングル大帝のサラウンド鑑賞」

サラウンド鑑賞では、佐藤先生がストーリーを読み聞かせながら、生徒さんたちは絵と音、お話から情景を思い浮かべます。鑑賞と並行して、音楽から感じたことや気づいたことを箇条書きで、配布したプリント用紙にメモしてもらいます。

3、音楽の構造・作曲技法について学ぶ

「ライトモチーフ」について学ぶ

ライトモチーフとは、オペラや交響詩などの楽曲中において特定の人物や状況などと結びつけられ、繰り返し使われる短い主題や動機を指します。単純な繰り返しではなく、和声変化や対旋律として加えられるなど変奏・展開されることによって、登場人物の行為や感情、状況の変化などを端的に表現しつつ、楽曲に音楽的な統一をもたらしています。『交響詩ジャングル大帝』では、このライトモチーフが随所に使われており、サラウンドによってより鮮明になった情景描写の中で、このライトモチーフの効果が更に際立っています。

特に何度も繰り返し現れるのが「パンジャのテーマ」です。最初は「動物たちのつどい」の曲中に登場し、その後、パンジャが登場する場面（「パンジャのかつやく」、「動物たちの喜び」、「パンジャの死」、「エライザのはなし」「星になったママ」、「アフリカが見えた！」）に、ホルンによって繰り返し演奏されます。

このライトモチーフは、『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』付属のブックレット13ページには譜例が紹介されており、DVDの特典メニューからはその部分だけを抜き出して再生することが出来ます。

今回の授業で取り上げた「パンジャの死」や「レオのたんじょう」では、前述の「パンジャのテーマ」や「レオの産声」をホルンなどの金管楽器が担当しています。

一方で、エライザを表現する旋律を演奏するのはチェロなどの弦楽器というように、それぞれの役をそれぞれの楽器が分担して表現しています。

授業の最後には、ライトモチーフの学習の確認として、「レオのたんじょう」の場面当てクイズが採用されました。曲中に出てくるホルンが演奏する「レオのテーマ」に気づけるかどうかは鍵です。なかなか難しい課題ではありますが、生徒さんたちも場面当てクイズを通してのライトモチーフの解説を、納得したような明るい表情で聞いていました。

[総括]

小谷場中学校での鑑賞授業は、「聴いて、感じる」ということよりも、「音楽や音響を学ぶ」という目的を重視した内容になりました。授業の内容的には、少し難しいようにも思いましたが、生徒さんたちは最後まで集中を切らさずに授業を受けていた様子で、サラウンドの音を耳でしっかりと追いかけてながら、情景を想像していた様子が印象的でした。

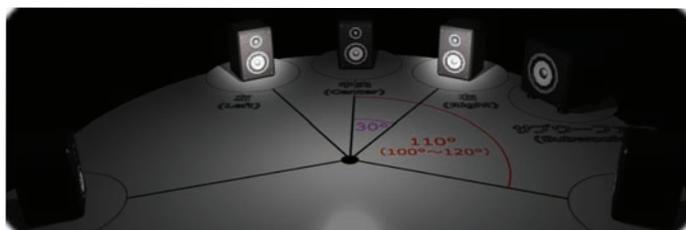
- 小谷場中学校の生徒さんたちの感想 -

- ・ 動物たちがどこに移動したかが分かって、とても面白かった。
- ・ 音だけなのに、その場所に物体があるようでした。
- ・ 音の動きがここまで分かるのははじめて。
- ・ 目をつぶって聴くのが一番良いと思った。
- ・ もっとスピーカーを増やしたら、どうなるのか疑問に思った。
- ・ 臨場感がすごかった。
- ・ スピーカー100個くらいおいてみたくなった。
- ・ 音源がいくつもあるので、そのできごとがどこで起こっているのかを想像しやすいと思いました。
- ・ 音が自分の周りを動いているみたいでおもしろかった。
- ・ 自分が好きな曲に立体感や、ゲームのBGMに臨場感があったら、とても面白くなりそうだと思う。
- ・ パソコンなどで自分でやってみたい。
- ・ 自分の家にもほしいと思った。でも1人にいるときとかは、いきなり後ろから音が聴こえてきたら怖いかも。実際、サラウンドだって分かってるのに後ろを向いてしまったし。でもすごく面白かった。レオも見たいと思った。こんど映画に行ったときはサラウンドを意識して聞いてみよう。

♪ サラウンド機器の設置について ♪

-各スピーカーの基本的な役割について-

左 ("Front" Left) 右 ("Front" Right)



前方のスピーカー（フロントスピーカー）は、音楽を聴く際の基本となるスピーカーです。ステレオ再生の際にもこの前方左右のスピーカーが使われます。一般的にはリスニングポイントから前方、左に30°右に30°にそれぞれ置きますが、厳密に角度を遵守しなくても大きな問題はありません。教室の状況に合わせて配置してください。

中央 ("Front" Center)



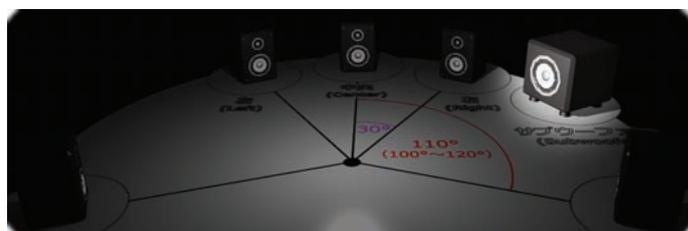
センタースピーカーは、映画などを5.1chサラウンドで視聴する際に、主にセリフなどに割り当てられるスピーカーです。機種によっては、センタースピーカーが2台に分かれているものもあります。前方左右のスピーカーのちょうど中央に配置する方法が一般的です。

左サラウンド (Left Surround) 右サラウンド (Right Surround)



基本的には、音楽に空間の広がりや、臨場感を演出するスピーカーです。一般的にはリスニングポイントの後方、100°~120°の左右に設置しますが、これも厳密に角度にこだわらなくても問題ありません。むしろ、120°~150°の間くらいに設置した方が、音がより後方に強調され、サラウンド効果が望める場合もあります。

サブウーファー (Subwoofer※)



低音（および重低音）のみを担当するスピーカーです。設置する位置についてはどこでも問題ありません。ケーブルの届く範囲で、邪魔にならない場所に設置してください。

※Subwooferは、LFE (Low Frequency Effect) とも表記されます。

-各スピーカーケーブルの長さについて-

ホームシアターセットなどには、最初から各チャンネルスピーカー用のケーブルが同梱されていることがほとんどです。各スピーカーケーブルの長さは、「左」「右」チャンネル用がそれぞれ3~5m、「中央」「サブウーファー」チャンネル用がそれぞれ2~5m、「左サラウンド」「右サラウンド」チャンネル用がそれぞれ10~15mあたりが一般的な長さです。そしてこの長さが、それぞれAVアンプから離せる、最大の距離になります。

サラウンド用のスピーカーケーブルはかなりの長さがありますが、もし長さが余るようであれば、可能な限りスピーカーケーブルを教室の壁沿いに這わせてください。そうすることで、子どもたちが足を引っ掛けたりせずすみ、スピーカーの転倒防止や子どもたちの安全確保につながります。



設置のワンポイントアドバイス

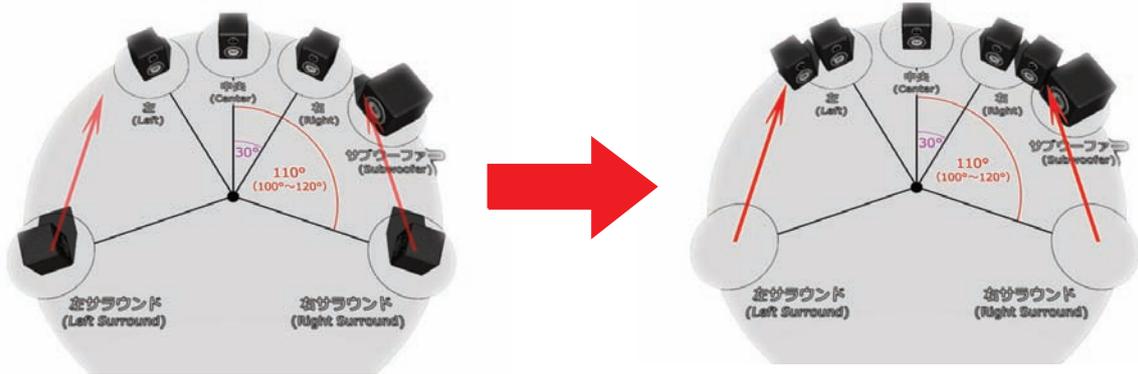


- 設置の工夫点、諸注意事項など -

「ケーブルの取り扱いについて」

スピーカー配置後はケーブル（特にサラウンド左右）が教室内を横切り、常時配置しておくことは現実的でないかと思えます。とは言え、ゼロからもう一度設置するには、そのために毎回15分～45分程度の時間を要し、これもまた現実的ではありません。

そこで、レシーバーの設置や配線はそのままにしておきつつ、普段はサラウンド左右のスピーカーを前面（フロント左右の辺り）に配置し、必要に応じてサラウンド左右をリスニングポイントの後方に持っていきやり方をお勧めします。



また、サラウンド左右のスピーカーケーブルは10m以上と長いため、かさばります。適当に置いたままにしますとケーブルが絡まり、取り扱いが煩雑化しますので、あらかじめ右図のようにまとめておくことで、かなり取り扱いに関しては改善されることと思えます。ケーブルまとめには、最初からケーブルをとめてある結束バンド（針金）も使えますが、身近にある紐や輪ゴムなどでも代用できます。



「ケーブルとスピーカーの接続について」

細かい点になりますが、スピーカーケーブルにはそれぞれ、「プラス極」と「マイナス極」があります。それぞれを逆に繋いでも音は出ますが、音の波形が逆向きになり、結果的に不自然な音になってしまいます。一般的なスピーカーのプラグは、右図のように赤と黒（もしくは「色つき」と「色なし」）2種類あります。右図のような場合、二又のケーブルうち、色つきの方をスピーカーの赤いプラグに接続します。



「スピーカーの調整について」

ホームシアターセットなどには、自動的に各スピーカーの音量バランスを調整してくれる機能がついたものがあります。もちろん、ほとんどの場合、手動でも調整が可能です。教室の環境によって、低音が大きすぎたり（初期設定のままですと、サブウーファの音量が大きすぎる場合がよくあります）サラウンド左右の音が小さすぎる、中央の音が大きすぎる・・・などの問題が生じたりしますが、各チャンネルのレベルを調整することで、環境に合わせて最適な設定にすることができます。

漢那 拓也 KANNA TAKUYA

尚美学園大学尚美総合芸術センター研究員

1983年、東京生まれ。尚美学園大学大学院卒。サウンドクリエイターとして、パビリオン音楽やInterBEEでのセミナー講演などを経験。音楽制作業務以外にも映像制作や各種デザインの分野を受け持つ。

2009年より尚美総合芸術センターに研究員として参加。同年『交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》』の制作に携わり、完成後も保育園や小学校、中学校などで鑑賞授業を実施するほか、親子を対象とした楽器ふれあいワークショップなどを企画するなど、同作品の教材活用研究のプロジェクトリーダーとして活動している。



企画・制作：尚美学園大学尚美総合芸術センター

企画協力：財団法人エンゼル財団

記事執筆・冊子デザイン：漢那 拓也（尚美総合芸術センター研究員）

制作年月日：2012年2月10日

関連リンク：

尚美学園大学
<http://www.shobi-u.ac.jp/>

尚美総合芸術センター
<http://www.shobi-u.ac.jp/sac/>

森永エンゼルカレッジ インターネット放送局
<http://www.angel-zaidan.org/>

教材関連：

交響詩ジャングル大帝《2009年改訂版》公式サイト
<http://www.shobi-u.ac.jp/sac/jel/index.html>

交響詩ジャングル大帝 教材活用サイト
<http://www.shobi-u.ac.jp/sac/edu/jel-e/index.php>

— M E M O —

